

「合唱コンクール」

おはようございます。

合唱コンクールのお話をする前に、まずうれしいお話をしたいと思います。先週の火曜日1年男子2名の生徒が、帰りがけに大正通りで、迷子になってしまい走りながら泣き叫んでいた3歳くらい³幼児を交番に連れて行ってあげたそうです。その後、お母さんと連絡がついて無事引き取ることができました。交番に連れて行ってくれたのが向島中の生徒ということで、「無事保護されて大変感謝しています。」と副校長先生のところにお礼の電話がありました。このようにすばらしい行動ができる生徒が向中にいるということは本当にうれしいことです。

さて、本校の64年の歴史の最後を飾る文化祭が、あと5日後に迫ってきました。舞台発表では、何とんでも全学年揃っての合唱コンクールが大きな取り組みのひとつとなっています。そこで、皆さんが本番までにどんなことに気をつけて練習をしたらよいか、私も音楽家としてアドバイスをしたいと思います。

(1) 各パートの声や音程を揃える。

しゃべるときの声を地声といいます。地声ではなかなかきれいな合唱にはなりません。合唱で使う発声を音楽用語で「頭声的発声」といいますが、正しい姿勢・腹の支え・豊かな顔の表情を意識しながら各パートの声や音程を揃えることが大切です。各パートの中で良い声だね、音程も確かだねという人に合わせていくとだんだんまとまってきます。

(2) 各パートの役割とバランスを意識して歌う。

各部分のメロディーは、パートごとに主役なのか脇役なのか、主役を引き立たせる飾りなのかを十分理解して歌うことが大切です。曲の中には、全パートが主旋律を歌うユニゾン、全パートがハーモニーの重なりで歌う、主旋律を追いかけて歌う、ルルルやラララの飾りをつけるなど様々です。主役が引き立つように、つまり役割によってバランスを考えて歌いましょう。全体のバランスの指示は指揮者やパートリーダーがするといいいでしょう。

(3) 曲にふさわしい表現をする。

歌詞の意味を同じように感じながら合わせて歌うことが大切です。パート練習や全員での合わせ練習のとき、ビデオやMDなど録画・録音できる機械を使って自分たちの演奏を客観的に聞き、みんなで批評し合い高めていくとますます良くなるでしょう。

以上、3つのことを参考にして練習に取り組んでください。今回は、特別審査員として聖徳大学准教授の松井孝夫先生に審査ならびに全校合唱「マイ・バラード」の指揮をしていただきます。最後の文化祭として良き思い出となるよう、この体育館いっぱい心のこもったすばらしい歌声を響かせてください。期待しています。